

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区名	平野区
学校名	加美北小学校
学校長名	飯尾 吉司

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・加美北小学校では、第6学年 60名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

- 国語科では、平均正答率で大阪市平均を7%下回る結果となった。令和6年度と同様に6内容別すべてで大阪市平均を下回る結果となり、各内容で課題を抱えていることが明らかになった。特に、「読むこと」において大阪市平均を大きく下回っている。一方で「情報の扱い方」の事項、「話す・聞く」の領域では、昨年度に比べ正答率の向上がみられる。
- 算数科では、平均正答率で大阪市平均を15%下回る結果となった。特に「図形」領域については、課題が大きい。また、平均無解答率が、大阪市平均のおよそ2倍になっており、算数における読解力も大きな課題である。
- 理科では、平均正答率で大阪市平均を12%下回る結果となった。特に「エネルギー」を柱とする領域での課題が大きい。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

[国語] 読むこと 「時間的な順序や事柄の順序を考えながら、内容の大体を捉える」、書くこと 「図表などを用いて自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」では、大阪府平均をおよそ13%下回っていた。書くことと読むことは相互に関連していることであり、双方の課題が大きいことが明らかになった。「言葉の特徴や使い方に関する事項」に関しては、大阪市平均レベルまで力をつけてきている。

[算数] 学校全体で「ショートラーニング」（計算力の定着を目指す時間）を設定し、四則計算等の習得に取り組んだことで成果が見られるものの、新たな課題として図形の領域において、特に大阪市平均との差がおよそ18%と大きいことが明らかになった。今後も既習事項の確実な定着をめざす取組を続けていきたい。

[理科] 4領域すべてにおいて、大阪市平均を下回った。全体を通しての知識の定着が大きな課題となっている。

質問紙では「算数の学習が好きだ」の回答は全国平均とほぼ同じであり、学習に意欲的に授業に参加しており、明らかになった課題の克服に向け取り組んでいきたい。また、主体的に学ぶ態度の育成にも力を入れて取り組む必要がある。

質問調査より

- 児童が互いに認めあえる集団づくりに各学級で努めてきた。「自分にはよいところがある」の肯定的な回答は80%だった。全国平均を7%下回っている。
- 「人が困っているときは進んで助けていますか」「人の役に立つ人間になりたいですか」の質問では全国平均を上回っている。
- 「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」肯定的回答が全国平均を上回っている。引き続き互いを認めあえる集団作りを進めていきたい。

今後の取組(アクションプラン)

- 国語科では、「加美北漢字検定」、「日本漢字検定協会」の試験を目標に意欲付けを図っていく。また、スクールアドバイザーの定期的な授業支援を受け、授業改善を行う。
- 算数科では、基礎基本の定着を図っていく。ショートラーニング（計算力の定着を目指す時間）を設定し、四則計算等の習得に引き続き取り組んでいく。また、少人数指導や習熟度別授業を実施し、「わかる・できる」経験をつませていく。
- 理科では、引き続き理科専科制を継続し、より専門性を生かした授業改善を行うとともに確実に知識が定着できるよう工夫を図る。

【 全体の概要 】

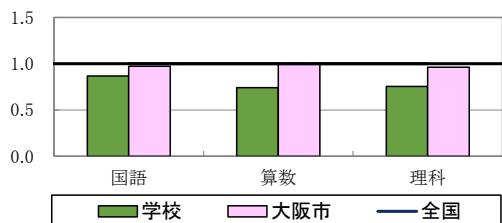
平均正答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	58	43	43
大阪市	65	58	55
全国	66.8	58.0	57.1

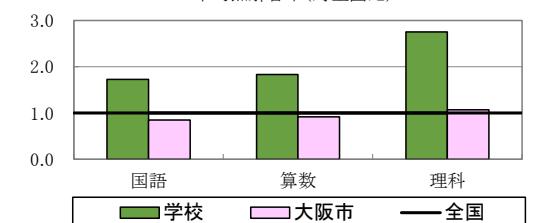
平均無解答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	5.7	6.6	7.7
大阪市	2.8	3.3	3.0
全国	3.3	3.6	2.8

平均正答率(対全国比)



平均無解答率(対全国比)



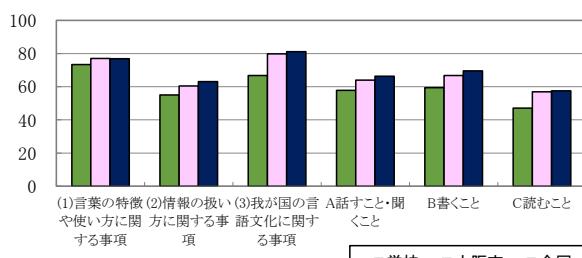
【 国 語 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	2	73.3	77.1	76.9
(2)情報の扱い方に関する事項	1	55.0	60.4	63.1
(3)我が国の言語文化に関する事項	1	66.7	79.9	81.2
A 話すこと・聞くこと	3	57.8	64.0	66.3
B 書くこと	3	59.4	66.7	69.5
C 読むこと	4	47.1	56.9	57.5

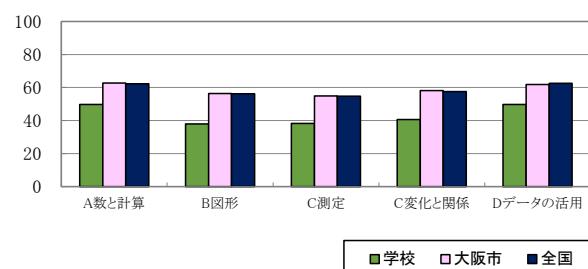
【 算 数 】

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	49.8	62.7	62.3
B 図形	4	37.9	56.4	56.2
C 測定	2	38.3	54.9	54.8
C 変化と関係	3	40.6	58.2	57.5
D データの活用	5	49.7	61.9	62.6

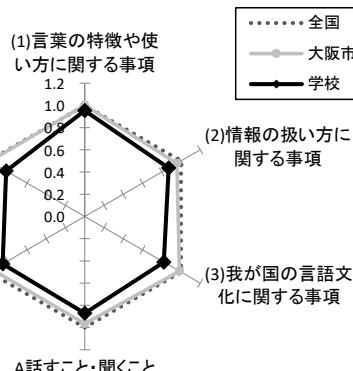
国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)



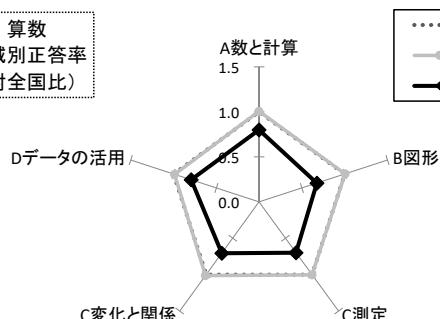
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語
内容別正答率
(対全国比)

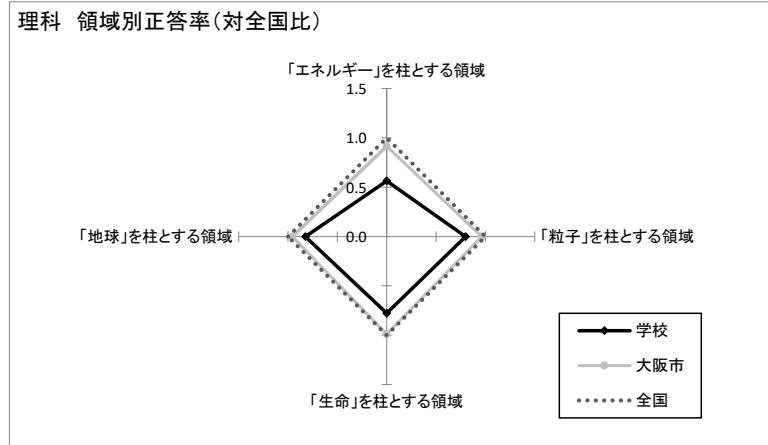
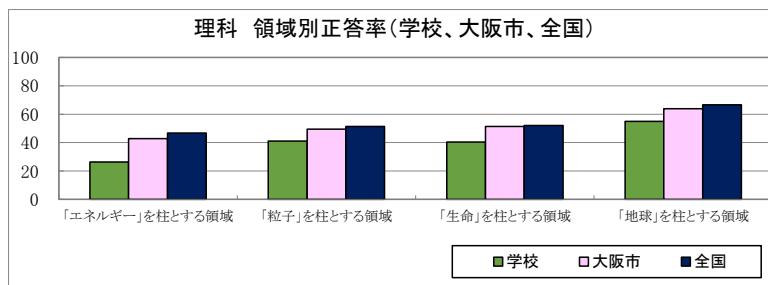


算数
領域別正答率
(対全国比)



【 理科 】

学習指導要領 の区分・領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 区分 「エネルギー」を 柱とする領域	4	26.3	42.7	46.7
	6	41.1	49.5	51.4
B 区分 「粒子」を 柱とする領域	4	40.4	51.4	52.0
	6	55.0	63.8	66.7



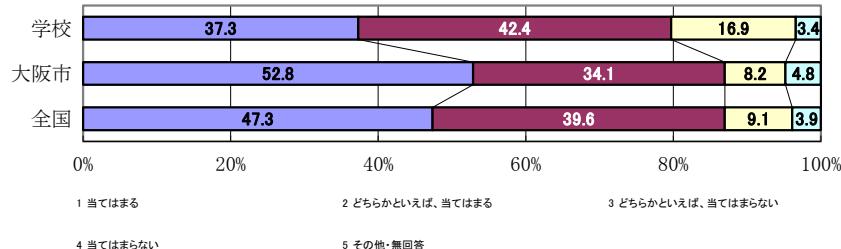
児童質問より

■1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

質問番号
質問事項

5

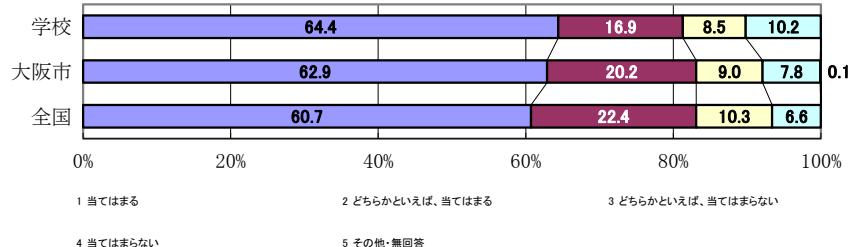
自分にはよいところがあると思いますか



1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない
5 その他・無回答

7

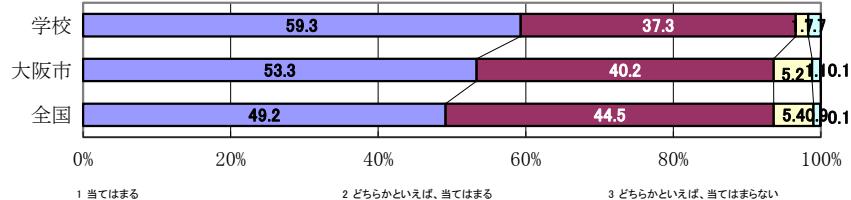
将来の夢や目標を持っていますか



1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない
5 その他・無回答

8

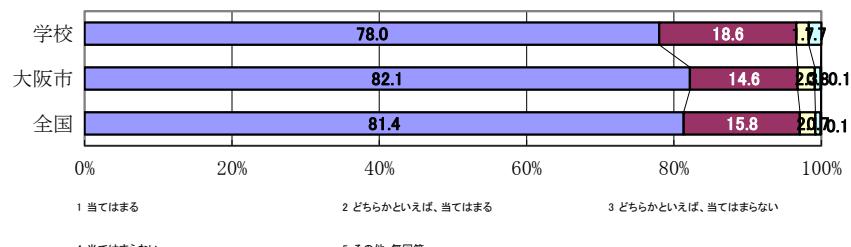
人が困っているときは、進んで助けていますか



1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない
5 その他・無回答

9

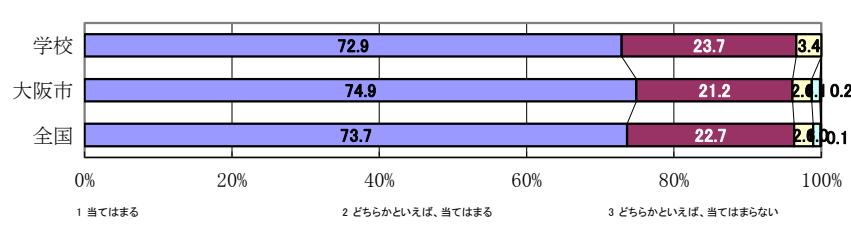
いじめは、どんな理由があつてもいけないことだと思いますか



1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない
5 その他・無回答

11

人の役に立つ人間になりたいと思いますか



1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない
5 その他・無回答

学校質問より

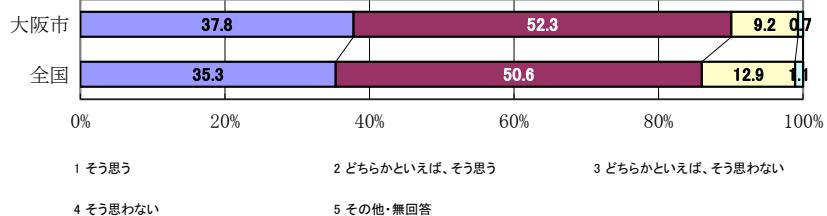
■1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8 ■9 ■10

質問番号
質問事項

8

調査対象学年の児童は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか

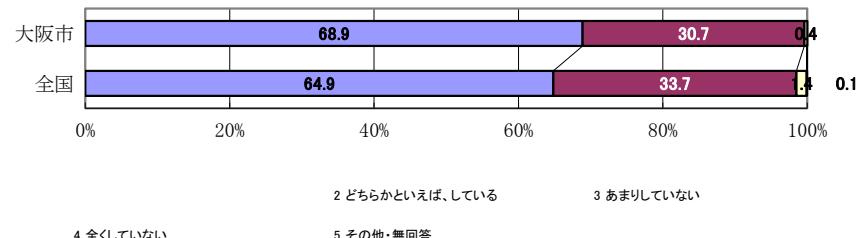
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



18

授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか

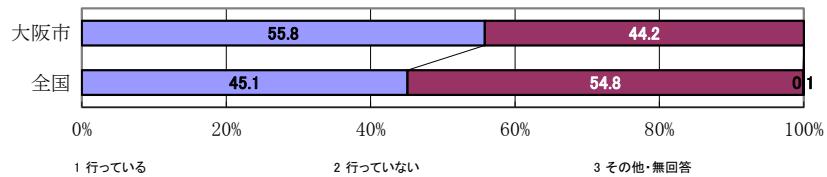
学校 「どちらかといえば、している」を選択



73

職場見学を行っていますか

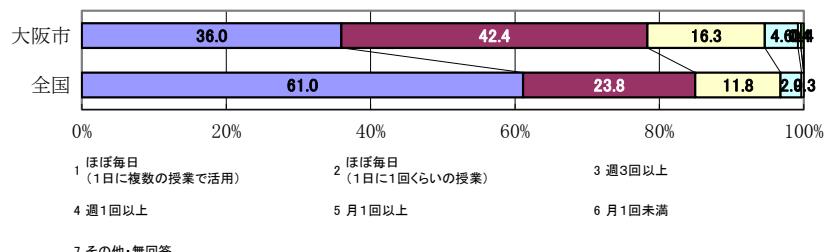
学校 「行っている」を選択



58

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか

学校 「ほぼ毎日(1日に1回くらいの授業)」を選択



学校 「」を選択

